

# バスという選択肢

「年して、足も目も悪くなって大変だ。散歩の10分とバス停まで歩く10分は違う。朝からずくでねや。バス停は近くになきゃな」

「〇〇は今日、乗らねえのかい」

「先週、乗ってたど」

「じゃあ、来週は会えるな」

「おめさんは今日、どこ行くだ」

「医者は来週だから、農協行くだ」

「おらは薬もらいに行く」

「昨日は涼しかったな」

「そだな。今日は、昨日より暑いらしいぞ」

「熱中症に気を付けるだな」

「稲穂が実る季節か。おっと、もう着く」

「じゃあ、またな」

「帰りのバスも一緒だ。またな」

とある8月の「ふれあいバス」内での会話―。

「地域の足」としてふれあいバスは、地域の交流の場にもなっているようです。



## ふれあいバスとは

中野市地域公共交通対策協議会が、市民の皆さんの交通の利便性向上を図ることを目的に運行する「ふれあいバス」「お出かけタクシー」。ふれあいバスは、コミュニティーバスとして3路線を運行しています。

写真の車は豊田地域の「ふるさとライン」を運行するふれあいバスです。

# Choices 1 選択肢 1

## 免許証の自主返納

図1のとおり、交通事故の中で高齢者が関わった事故は年間約4割。高齢者が車を運転し、事故の原因になったものは約2・5割です。この数値は、高齢者の免許保有率から見ると、納得のいく数字とも考えられます。しかし、このデータには「死

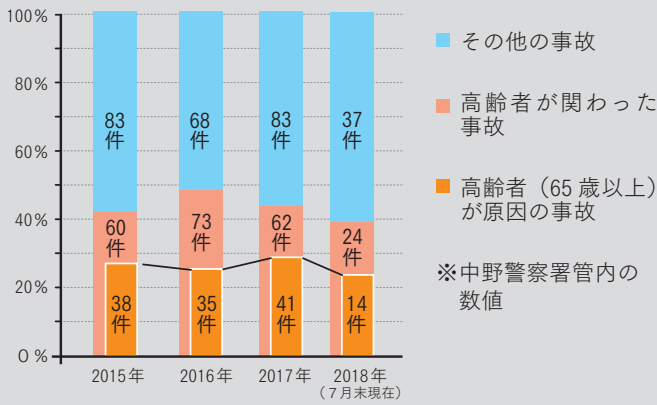


図1 死傷者が伴った交通事故件数



中野警察署 交通課  
市川 正樹 課長

高齢になるにつれ「認知力」「判断能力」など、車の運転に必要な能力が衰えま

「ブレーキを踏もうとしてアクセルを踏んでしまった」などの、幸いにして死傷者が出なかつた事故も多いです。このような注意不足や操作ミスによる事故は、高齢ドライバーに多く見られます。高齢になるにつれ「認知力」「判断能力」など、車の運転に必要な能力が衰えま

す。運転免許の更新でも、75歳以上の人は認知機能の低下の有無を検査します。高齢でも「車を運転したい」という人もいますが、「交通事故を回避する」という意味でよく考えてみる必要があります。ここで重要なことは、家族で話し合うことです。まずは、高齢者が運転する車に同乗してみてください。その上で家族で、運転免許証の自主返納を考えてみましょう。自主返納は、事故を起こさないため、加害者にならないため、そして「自分の命を守るため」の選択肢の一つです。

※図は中野警察署管内の数値。高齢者の免許保有率の長野県平均は27.8%。

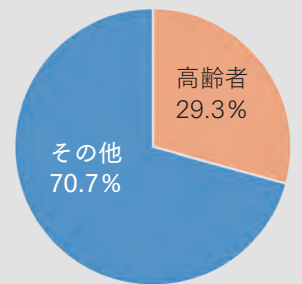


図2 高齢者の自動車運転免許証保有率

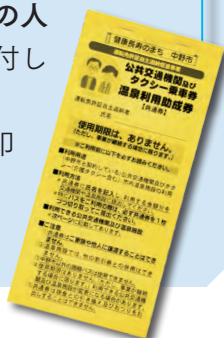
### 公共交通機関・タクシー乗車券の交付

市が契約する公共交通機関（タクシー含む）の乗車券、市内の温泉利用券の交付を受けることができます。

#### ▼対象者

65歳以上で運転免許証を自主返納し、「取消通知書」の交付を受けて1年以内の人

- ・1人1回限り、10,000円分を交付しています
- ・「取消通知書」（写しでも可）と印鑑を持参し、市の高齢者支援課で申請してください



## 免許証の返納後 どちらも選択できる

### 運転経歴証明書の発行

返納日から5年以内に警察署へ申請することで交付を受けられます。

- ・交付手数料は1,100円です
- ・有効期限なし、再発行や住所変更が可能です
- ・金融機関での身分証明書になります
- ・一部の交通機関などで割引の対象になります